

## 日女薬カレントニュース第 25 号(2022 年 11 月配信) のご紹介

日女薬カレントニュース第 25 号では、皆様の活動に役立つ情報満載でお届けします。

- ・感染症情報「COVID-19 第8波とインフルエンザの同時流行について」村井貞子先生
- ・「あなたやお子様は環境過敏症ではないですか？ 後編」北條祥子先生
- ・医療安全確認クイズ「重篤副作用疾患別対応マニュアル 血管性浮腫」

[000240123.pdf \(pmda.go.jp\)](https://www.pmda.go.jp/000240123.pdf)



「COVID-19 第8波とインフルエンザの同時流行について」東邦大学名誉教授 村井貞子先生

今年も年末から年明けに向けて COVID-19 とインフルエンザの同時流行が懸念されています。

第 101 回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード(10 月 5 日)において、「新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの流行に関する短期的な見通しと暫定的リスク評価:2022 年 10 月 5 日時点」が資料として提出されました。直近の国内外の感染症の知見と背景を基に、本年 10 月以後の数か月から半年間の、小規模の流行、年内の大規模流行、年明けの大規模流行のシナリオを想定し、関連する要因について報告の概略を解説していただきました。

COVID-19 の流行については、過去 2 年間の経過から概ね 12 月から 2 月及び 6 月から 8 月にかけて流行の拡大が見られており、日本での第8波の流行を想定する事は合理的であり、その見通しに影響する主な3つの要因を解説しています。①新規変異ウイルスの出現、②人口の免疫保有状態、③自然感染及びワクチン接種による免疫の減弱が流行拡大の要因となるが、オミクロン対応の 2 価ワクチン(BA.1 対応 2 価ワクチン、BA.4/5 対応の 2 価ワクチン)の有効性とワクチン接種率の向上。

季節性インフルエンザについては、2 年間流行がなかった為に国民の間の免疫低下があり、更にインバウンドの緩和など社会的な要因も加わり、今冬にインフルエンザの一定程度の流行を認める可能性は高いと言われています。本報告では、両感染症が同時期に流行する可能性を強く示唆しており、最後に公衆衛生的対応の 1 つとして「インフルエンザワクチンと 2 価 COVID-19 ワクチンの高い接種率の実現」が謳われています。

共に呼吸器系感染症である二つの感染症を予防しながら社会的な活動を行うためには個人の感染対策が重要になります。マスク、手洗い、換気、密を避ける(1密も危険！)、咳エチケットの感染経路対策であり、更にワクチン(COVID-19 ワクチンとインフルエンザワクチン)接種による感受性者対策の必要性が強調されています。

接種可能な一般の方々への啓蒙を是非行っていただきたいと思えます。

[参考資料3 新型コロナ・インフル同時流行対策公表資料③](#)



「あなたやお子様は環境過敏症ではないですか？・後編」尚絅学院大学名誉教授 北條祥子先生

今回は、北条先生の調査結果の一部を具体的に説明いただき、女性薬剤師の皆様に向けて環境過敏症への対処法について解説していただきました。どうしたら、あなたやお子様は環境過敏症にならないで済むでしょうか？個人レベルでできる環境過敏症対策は？社会的レベルの予防原則的対応は？と生活環境の改善のポイントは必見です。

詳細は日女薬会員ページから日女薬カレントニュース第 25 号(2022 年 11 月版)をご参照ください。